

モデル事業名	眠っている地域資源・地域財産を活用した農山漁村の活力再生事業
活動団体名	穴水町移住・定住・交流居住推進協議会
ホームページ	なし
所属／ 担当者名	株式会社和倉 穴水店 江尻屋／北出 整
連絡先	0768-52-0911、kitade@okuichi.net
活動地域	石川県鳳珠郡穴水町 住吉、甲、諸橋、鹿波地区

● 活動地域の概要

【穴水町全体として】

■人口

総人口 9,742 名、世帯数：3,705 世帯、世帯平均人員：2.6 名、65 歳以上率：36%

■集落

総集落数 106 集落、うち 10 世帯未満の小規模集落は 19 集落

■交通機関

能登空港（航空）、のと鉄道（列車）、北陸鉄道（バス）、能登有料道路（車）、国道 249 号線（車）

■産業別人口割合

産業別就業者割合：第 1 次産業 14%、第 2 次産業 24%、第 3 次産業 62% ※平成 17 年度就業人口割合

■震災復興の動き

主要道路（県道 1 号）の拡張開始、穴水駅前～商店街間の利便性向上、農業用道路の拡張



【石川県】



【穴水町】



【休耕地を活かした穀物作り】

● 活動地域の課題

対象地区となる集落では、慢性的な高齢化が問題となっていると同時に、未来を担う若者との交流が少なく、年に数度の催事などに協力してくれる大学生ボランティアが、唯一の交流の場と言っても過言ではない。第 1 次産業が主となる同地域においては後継者問題も抱えており、若者同士の交流もないため、過疎化に拍車をかけている。また、道路整備においては、特に海沿いの集落は里山里海としての趣はあるものの、あまりにも道幅が狭いため、若干の観光交流の妨げになっている状況も観られるほどである。何より、行政主体の活性化事業が根付いているため、住民主体となる活性化の機運が盛り上がりづらくなっている。

● 活動の内容

（全体）

- ① 「空き家・空き農地バンク」「空き家・空き農地マップ」の作成
集落の空き家や耕作放棄地、休耕地などを調査し、それらを利用する際の必要情報などを整理する。
- ② 「自然体験活動プログラム」の作成と「農家民泊」の受け入れ調査
農山漁村の特徴を活かした体験観光プログラムの作成と民泊受け入れ可否の調査を行なう。
- ③ 「自然体験活動指導者育成講習会」の実施
体験観光プログラムを安全かつスムーズに進行させる知識と技術を持った人材を育成する。

(直近1年間の進捗など)

- ① 「空き家・空き農地バンク」「空き家・空き農地マップ」の作成
震災当時のまま放置された空き家や歴史深い蔵などもあるため、観光に活かさないか検討中。
- ② 「自然体験活動プログラム」の作成と「農家民泊」の受け入れ調査
当該地区を中心とした、体験観光メニューの実施に向けた企画を検討中。
- ③ 「自然体験活動指導者育成講習会」の実施
前年度、育成した指導者を②やその他で活かすための体験観光の実施を検討中。

● 活動の成果

(全体)

前年度の進捗状況は以前、報告した通り、マップの作成やプログラムの作成、講習会の開催などを行ない、成果を上げた。(平成21年7月～平成22年3月)

- ① 全3回の空き家・空き農地調査を実施によって、空き家・空き倉庫163棟、休耕地75ヶ所を確認。
- ② 協議会メンバーによる体験メニューカルテを作成。当該地区区長への農家民泊に関する協力要請と同地区総代会での説明を実施。
- ③ 全2回の講習会によって、文部科学省認定小学校長期自然体験活動補助指導者を61名要請。



【空き家・空き農地の調査】



【農家民泊および指導者養成に関する説明会】



【自然体験活動指導者養成講習会】

(直近1年間の成果など)

- ① 各地域に点在する歴史ある建造物の調査を実施。
- ② 体験メニューに関連する企画の提案と模擬体験会を実施。
- ③ 自然体験活動指導者の指導の下、生協グリーンライフ「里山里海子ども村ツアー」と長野大学体験ツアーの受け入れ。

自然体験活動指導者



【当該地区にある大型蔵】



【生協グリーンライフ、ブドウ農園見学】



【長野大学ツアー、カヌー工房見学】

● 今後の課題及び展望

・課題

当該地区は高齢化が進む一方のため、交流人口増加に伴うアイデアや雇用促進につながる企画を提案しても、長期的展望のためか、こちらが望むほどの反応は得られない。また、体験観光の芽となり得る素材、いわゆる第1次産業と密接な生活スタイル、地区を囲む森林や河川、海岸線などは、十分すぎるほどあったとしても、それを活かすための人材、次世代を担う若者がいないことが課題と言える。

・展望

当該地区の高齢者が無理せず、身の丈に応じた体験観光を少人数（家族や数名グループ程度）に提供し、当該地区のみならず、周辺地区の魅力、能登半島の魅力を周知することで、移住、定住、交流居住のきっかけになると思われる。今後の展望として、現状の地区の魅力を如何に伝えるかに重点を置いた活動を考えている。

● その他

特筆なし。